

研究課題名

透析患者における CT で測定したサルコペニア指数と生体インピーダンス法により得られる骨格筋指数の関連について

研究責任者の氏名

矢島隆宏

共同研究者の氏名

荒尾舞子

研究の概要

目的: 透析患者においては、筋肉量の減少が生命予後に悪影響を及ぼすことが知られています。生体インピーダンス法は簡便に筋肉量を測定することが出来ますが、潜在的に浮腫のある維持透析患者においては、筋肉量(骨格筋指数, skeletal muscle mass index: SMMI)を過大評価する可能性が示唆されています。一方、肝疾患や癌の領域において CT による筋肉量(サルコペニア指数)の評価が生命予後の推定において有用であることが知られています。しかしながら、腎疾患の領域において、CT によるサルコペニア指数と生体インピーダンス法による SMMI との関連は明らかではありません。そこで、透析患者において、CT によるサルコペニア指数と生体インピーダンス法による SMMI の関連を評価することを目的とします。

対象と方法: 2019 年 1 月から 2020 年 6 月の間に、当院外来にて維持透析患者さんのうち、癌のスクリーニング検査の一環として腹部単純 CT を施行した患者さん 100 例を対象とします。カルテから、身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、生体インピーダンス法により得られた体組成などのデータを収集します。

既報をもとに CT によるサルコペニア指数は第 3 腰椎のスライスで①腹回りの骨格筋、②腸腰筋、③傍脊柱筋の面積と④腸腰筋の厚さを計測します。面積を身長²で割ったものをそれぞれ abdominal skeletal muscle index (ASMI)、psoas muscle index (PMI)、paraspinous muscle index (PSMI)と定義します。また腸腰筋の厚さを身長で割ったものを、psoas muscle thickness/height (PMTH)と定義します。まず、ASMI、PMI、PSMI、PMTH と SMMI との相関を評価します。さらに、サルコペニアのガイドラインによる筋肉量低下を女性 SMMI <5.7kg/m²、男性 SMMI <7kg/m²と定義した時の ASMI、PMI、PSMI、PMTH の筋肉量低下の診断能を評価します。

研究に関する記録は、研究終了後 5 年間保存した後に消去します。なお、研究の成果に関しては、学会発表や論文投稿する予定です。住所、氏名などの個人情報公開されることは一切ありません。

利用する情報の項目

身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、CT 所見、生体インピーダンス法により得られる体組成のデータなど

利用するものの範囲

医師： 矢島隆宏、荒尾舞子

連絡先

松波総合病院 腎臓内科 矢島隆宏

TEL: 058-388-0111

FAX: 058-388-4711